平成２８年度第２回倉敷市社会教育委員会議　会議録

（開催日時）　平成２９年２月７日（火）１４：００～１６：２０
（開催場所）　茶屋町公民館　２階　大会議室
（視　　察）　磯崎眠亀記念館
　　磯崎眠亀顕彰会（地域団体）による茶屋町小学校３年生学外授業
（議　　題）　(1)教育行政重点施策の取組み　－　平成２８年度実施状況　－
　　(2)地域団体による社会教育への参画について
（出 席 者）　委員８人・欠席７人（別紙：社会教育委員会議出欠簿　参照）、
　　事務局６人
（傍 聴 者）　なし
（報　　道）　なし
（会議内容）　以下のとおり

－　茶屋町公民館に集合後、磯崎眠亀記念館へ移動　－

１　視察

－　茶屋町小学校３年生２クラスの児童が学外実習として磯崎眠亀記念館で、磯崎眠亀顕彰会佐藤充氏よる地域の偉人である磯崎眠亀についての講話を聞いているところを視察　－

－　磯崎眠亀顕彰会　佐藤　充哲氏との意見交換　－

（委員）この磯崎眠亀記念館（旧住宅兼研究所）は国の登録有形文化財であり、利用についての制約があると思いますが、有効に利用していると感じました。

（委員）連島地区にも薄田泣菫生家があり、地域の偉人という地域資源はありますが、最近の教員は倉敷在住でない人も多く、それらを知らない先生も沢山います。このような取組みは非常によいと思いました。

（委員）講座は、小学校３年生にも理解できるように、言葉使いなど工夫しているように思いました。ただ、功績などを説明する際に理解しにくい単語や言い換えられない言葉などもあるように思いましたが、講座をする上での苦労などはありますか。

（佐藤氏）説明に使う言葉などは、小学校３年生には理解しにくいものも沢山あり、工夫していますが、全て理解してもらうのは難しいと感じています。ただ、全ては理解できなくても、自分たちが住んでいる地域には磯崎眠亀という偉人がいて、その住宅が国の登録有形文化財になっていることを知ってもらうだけでも重要なことと考えています。話を聞いた子どもが小学校を卒業し、社会人になって再び訪れてくれた時には、自分が住んでいる地域に誇りを持ち、好きになってくれるきっかけになったと感じ、やりがいを感じています。

（事務局）茶屋町小学校との連携はいつごろから行っているのでしょうか。

（佐藤氏）正確な年はわかりませんが、２０年ぐらい前から、小学校と連携して活動を行っています。

－　磯崎眠亀記念館の見学と展示品の児童への説明風景を視察　－

－　茶屋町公民館へ移動　－

２　開会

３　あいさつ

－　生涯学習部　松井部長によるあいさつ　－

４　議長選任

－　赤木委員を選任　－

５　協議

（１）教育行政重点施策の取組み　－平成２８年度実施状況－

－　事務局からの説明　－

平成２８年度の社会教育分野の主要事業・重点事業を掲載した資料について説明。

事前質問はなかった旨を報告。

－　質疑応答　－

当日質問なし

（２）地域団体による社会教育への参画について

（議長）「地域団体による社会教育への参画」について、御協議いただきたいと思います。

さて、御協議いただく前に、お手元の第１回倉敷市社会教育委員会議の議事録を御覧ください。前回（７月）の会議の最後に、学校支援事業として地域団体と連携することが必要であること、そして具体的には地域資源をうまく利用しながら、自主的に地元の偉人や地域のことを学び、それらを地元の小学生に教えることで、地域への愛着を持ってもらえるように活動している団体を視察することになったと思います。

その時に挙がりました磯崎眠亀顕彰会がどのような活動をしている団体か、もう一度、再確認したいと思いますので、説明を事務局からお願いします。

（事務局）磯崎眠亀顕彰会という団体について、簡単に御説明させていただきます。お手元

の資料にある、両面のカラーコピーの「磯崎眠亀だより」をご覧ください。

先ほどの、磯崎眠亀顕彰会の佐藤氏の説明と重複するかもしれませんが、磯崎眠亀顕彰会は茶屋町小学校と協働しながら活動を実施している地域団体です。先ほどの佐藤氏の話では、茶屋町小学校との連携は２０年以上とのことでした。活動拠点は先ほど見学した、国の登録有形文化財でもある磯崎眠亀記念館（旧住宅兼研究所）です。活動目的は発明家である磯崎眠亀が花むしろの発明や殖産に大きく貢献した功績を顕彰し、郷土の青少年の育成の糧とすることを目的に広く次世代に伝承することです。

茶屋町小学校との協働の内容としては、「磯崎眠亀だより」の表紙の一番上にあるように児童に磯崎眠亀に関係する書画展や絵画展に作品を出してもらい、地域の偉人である磯崎眠亀に親しみと関心をもってもらい、表彰状をもらう体験をさせたりしています。

先ほど視察したように、学外学習として、磯崎眠亀記念館で眠亀講座を開催しています。眠亀講座とは磯崎眠亀が不眠不休の努力で次々と新しいことにチャレンジし、研究や発明、地域産業の発展に貢献し、ついには錦莞莚などの花むしろ産業を海外輸出品の第３位まで押し上げることに寄与した功績などを説明し、磯崎眠亀のようにしっかり勉強しましょうと激励する内容でした。

これらの活動は、まさに地域の偉人について磯崎眠亀顕彰会の人たちが学び、地域の文化財などの地域財産を利用し、それらを地域の子どもたちに伝承することであり、それは生涯学習活動であり、同時に社会教育を実践していることにもなります。

ちなみに、磯崎眠亀記念館は、生涯学習課で作成している、お手元のいきいきパスポートや流域パスポートにも掲載されており、社会教育施設として、広く子どもたちに広報しています。

（議長）それでは、さっそく「地域団体による社会教育への参画について」協議を進めたいと思います。先ほど視察した学外授業の感想、また、皆様が所属する各団体の現状及び地域団体との連携の必要性などについて、御意見いただけたらと思います。

（委員）本日視察したような学外授業の対象は小学校３年生に限定されているのでしょうか。３年生には少し難しい内容のように感じました。

（事務局）小学校３年生の社会科の授業で「地域を学ぼう」という単元があります。学校によって何を対象とし、何を学ぶかは異なります。茶屋町小学校は磯崎眠亀という地域の偉人がいるため、それを題材としているのだと思います。少し学ぶには難しい題材かもしれませんが、これから繰り返し学び始める第一歩としては、適切な学年だと思います。

（委員）自分の地域でも小学校と中学校が連携して、読み聞かせなどを中学生が小学生に行っています。また、最近感じるのが、新任の先生が倉敷市に住んでいないことも多く、校長先生も地域の方でないことがあります。先生方には是非、自分が勤務する地域のことを知ってもらいたいと思っています。また、そのようなことを教育委員会が指導できないものかと思います。

（議長）現在は、その学区内に住んでいない先生がとても多く、そのように感じることはよくわかりますが、現実的には、教育委員会が教員を住んでいる学区の学校に配置することは、様々な要因があり、難しいと思います。しかし、先生方もその地域のことをよく知っていることは児童の生活指導を行う上で、とても大切で、子どもたちに自分の地域を学ばせることが、子どもたちの郷土愛に繋がると思います。私も学生たちに地域の博物館などに実際行くことを勧めています。

（委員）小学校や中学校には掲示板などがあると思います。そこに、地域の偉人などの地域の情報を掲載して、郷土愛を育む試みをしてみてはどうかと思います。
（委員）小学校３年生にこれらの地域の偉人などの勉強をするには、ちょうどいい年齢だと思いました。内容的には少し難しいとも思いましたが、児童たちは皆、真剣に講座を聞いていました。小学校３年生ぐらいから、移動範囲も広がるため、このぐらいの年齢の小学生が地域の事を学び始めるのは、ちょうどいいタイミングであると思いました。また、講座を学校で聞くだけでなく、学外授業としてその場に行き、色々と現地を見るなどの体験学習は、記憶にも残りやすく、良い取組みであると感じました。町内会などで掲示板を使うこともありますが、なかなか見てくれない事が多いです。
（委員）児童へこのような偉人が地域にいることをプリントにして、配布すれば、親世代にも見てもらえ、地域のことを知ってもらう良い機会になるのではないでしょうか。
（委員）「学年だより」などで、児童がどのような授業を受けているかを親世代に知らせる事は今でもやっていると思いますが、知ってほしい人が読んでくれないという問題が常にあると感じています。
（委員）このような地域の情報を原稿にして、より広く地域の人に知ってもらうことはいいことだと思います。自分も本日初めて、このような人が茶屋町の地域にいたことを知りました。ちなみに、茶屋町地区には何校の小学校があり、茶屋町小学校の児童は何人ぐらいいるのでしょうか。
（委員）茶屋町地区には茶屋町小学校のみだと思います。また、茶屋町小学校の児童数は市内でも多い方で１３００人ぐらいだったと思います。
（議長）概ね４ｋｍに１つの小学校が設置されていると思います。
（委員）地域の情報を発信する方法を何か検討できればと思いました。
（委員）親の世代は出身地も様々で、地域のことをよく知る機会もあまりないことが多いので、このような小学生への地域学習は、児童から親世代に情報が伝わることも多々あるので、とても効果的であると思います。
（委員）公民館が地域の情報の発信源としての役割をはたしているように思います。
（委員）地域と学校の連携の事例として、蛍を育てるのに小学校と地域が連携して行っているものもあります。最近問題として感じるのは、小学校は、基本的な生活習慣を学ぶ場所であると思いますが、すべての基本的な生活習慣の指導を学校まかせにする親が増えているように思います。
（委員）今は、子育てを家の中でしない家庭が沢山あります。玉島支所管区では１歳の子を家庭で子育てしている家庭は約半分で、３歳になると１０数％しか家庭で子育てをしていないとの事です。親が子どもを保育園や学校へ入れようとするのは、団体生活を身に着けさせることを理由としています。しかし、本来、団体生活は個人のしつけなどが出来ていることが前提のはずです。現在は、家庭教育ですべきことも全て学校に押し付けているように思います。
また、地域の繋がりが少なくなり、地域の教育力も低下し、学校への負担が大きくなる中で、視察した磯崎眠亀顕彰会のような団体が学校と連携して地域で子どもを育てていく活動はとても有効的であると感じました。
社会教育委員の全国大会に参加しているとき、学校がボランティアルームにある掲示板などに支援を求める内容を書いて、それを見た地域の人が自分のできる範囲で協力すると

いう学校支援の事例がありました。特別な技能が無くても、自分のできる範囲で、学校を支援し、地域で子どもを育てていくというこの事例は、とても有効だと感じました。

（委員）自分の地域では、学校支援事業の導入はしていませんが、学校の先生がコーディネーターの役割をして、学校が求める事と地域ボランティアのマッチングをしています。自分もそのボランティアに参加していますが、学校支援事業となるとコーディネーターの配置及びそれに伴う選任作業などがあり、ハードルがあがるため、このような取組みも、地域と学校が連携しているよい事例だと思います。

（委員）世代を超えた繋がりは、地域の祭りが一番良いと感じていましたが、磯崎眠亀顕彰会でも、眠亀祭りというものをやっているとのことでした。３０～４０代の今の親世代は地域との繋がりも薄く、人見知りをする世代だと感じています。子どもと親の両方を地域で育てていくことが必要であると感じています。

（委員）私は社会体育の活動をしています。そこでは、年上の子が年下の子に掃除やあいさつなどいろいろ教えています。そのようは場では、親も周りに影響されて、子どもをきちんと教育できているように見えますが、そのような場にも来ないような家庭が問題だと思います。

（議長）今問題になっているのは、核家族化だと思います。高齢者は時間的余裕もあり、地域を知っているので、学校や地域にどんどん入ってもらう必要があるように思います。地域があっての学校であり、地域があっての家庭であると思います。学校は地域社会の核であるので、地域で学校を支えて行く必要があると思います。そのためには家庭と地域社会とをどう繋げていくかが重要です。既に学校支援事業の中で行われていると思いますが、学校の空き教室をボランティアルームとして高齢者などに開放し、高齢者に学校に来てもらい、高齢者と子どもとの繋がりをもとに、高齢者による小学生などの交通安全見守りなどから、地域内での人間関係をつくっていくのも１つの方法だと思います。

（委員）今は、最も狭い地域の繋がりである町内会ですら、脱退などの問題があります。ゴミ問題が地域をまとめるきっかけになることもありますが、地域の集まりに地域の校長先生などが来てくれればまとまるきっかけになると思います。

（委員）学校の先生の負担をどのように軽減するかも今、問題となっています。

（議長）さまざまな人や団体をまとめる１つの場所としての学校は重要な要素だと思います。地域に住んでいる人たちを繋げ、まとめる方法を考えていかないと地域がガタガタになり、最終的には住んでいる人たちの不利益なると思います。

（委員）１番狭い地域社会である町内会に災害などで、皆の協力も必要だから入会してほしいと言っても、誰の世話にもならないからほっておいてくれと言われ、入らない人もおり、困ったことがありました。

（委員）地域との繋がりの必要性は、小さいときから再教育していく必要があると思います。今の親世代には、それらの大切さを改めて理解してもらうことの難しさを感じます。

（委員）コミュニティー協議会や、まちづくり推進協議会では、市役所の市民活動推進課、社会福祉協議会と連携して活動をしています。真備地区では、もともと地域活動が盛んでしたが、その真備でも若い人の地域離れが進み、問題化しています。

（議長）今は、子どもたちが参加しやすい地域団体があまりありません。子ども会なども

活動も縮小しているように見えます。地域をまとめるには、学校はとても重要なものですが、学校の先生の負担は今でも非常に重いです。国の動向として、先生の負担軽減のため、専門家、指導員、部活動支援員、カウンセラーを学校に配置し、学校を支えていこうという動きがあります。倉敷市も学校支援事業実施校は４６校あり、コーディネーターなどの地域の人材発掘などの難しさなどの問題もありますが、社会教育なども絡めて、地域活動を活発にして学校を支えて行く必要があると思います。本日の会議では、学校代表の先生が不在で内情を詳しく知ることができず残念でしたが、学校の内情を知った上で解決策を検討する必要があると思いました。

学校教育の流れとしては、現在社会教育団体だけでなく、博物館などの社会教育施設とも協力し、能動的な学習の必要性が求められています。地域団体と協力しながら地域資源を有効に利用し、子どもたちが学外実習を通して積極的に能動的な学習を行い、地域のことを子どもたちに良く知ってもらい、それらの活動を学校だけでなく、地域社会と協力して行うことで地域社会を立て直していくことも今後求められると思います。

６　閉会

－　生涯学習部　三宅次長によるあいさつ　－

会議録の内容に相違ないことを確認し，ここに署名します。

平成 29 年　3 月　6 日

議長　赤木恒雄